

## 掛川市と「災害時における相互応援に関する協定」締結！

9月26日、明和町役場にて静岡県掛川市と「災害時における相互応援に関する協定」を締結いたしました。当日、掛川市の松井市長には大変お忙しい中、遠路はるばるお越しいただき協定を締結することができました。



### 【掛川市の松井三郎市長を囲んで】

安全で安心なまちづくりにおいては、もしもの事態を想定しておかなければなりません。300km離れた明和町と掛川市のお互いが、災害時に人的・物的援助が出来ればと考えて、災害緊急時に応援し合う協定を今回締結いたしました。今後も明和町民と掛川市民も含めながら友好的な都市交流を深め、お互いの地域の活性化と安全・安心づくり繋がることを目的にしております。



また、私も本年2月に掛川市を訪問し「特産品による健康増進に関する協定」を結ばせていただきました。その協定により現在、学校給食で掛川市のお茶を使った献立を月に数回実施しております。

### 【災害時相互応援協定式の様子】

また、町内4施設（スズカケ・ポプラ・老人福祉センター・役場町民プラザ）で**がん予防効果**と**認知症予防効果**があるといわれている「**深蒸し掛川茶**」を存分に味わえるようになっております。町民の皆様からは「美味しいお茶をありがとう」と好評をいただいております。また、なぜ掛川市と協定を結ぶことになったのかと聞かれることがあります。その都度、江戸時代において掛川市は掛川藩の領地、明和町は館林藩の領地でしたが、当時の館林藩主である「太田資俊公」が延享3年（1746年）徳川家重（9代将軍）の命により掛川藩に移り、以後7代にわたり幕末の廃藩まで掛川を治めることとなりました。そういった歴史のご縁でこのお茶を飲めるようになりました。とPRしております。今回、そのご縁を「災害時の相互応援協定」としてより強く結ぶことができますことに心から嬉しく思います。

さらに、そのほかにも史実として結びつきがあり、掛川市に横須賀城という城がありますが、館林初代藩主榊原康政公の長男（大須賀忠政）が横須賀城の初代藩主になっております。これも明和町と掛川市の昔からのつながりを証明するものです。



近年の気候は地球温暖化の影響により、また、地球の地殻活動期の影響により、どこで猛烈な雨が降るか、どこで火山が噴火するか、どこで地震があるか分からない状況で、連日のように自然災害の話題はテレビ・新聞を賑わしております。そして日本列島もいつ、どこで何が起きるかわからない状態でございます。このような時代に、300km離れた掛川市と「災害時の相互応援協定」が締結できたことは、誠に心強いと思っております。この協定が実際に役立つことがあってはなりません、備えあれば憂い無しと申します。いざと言うときにはお互いに助け合えればと考えております。



また、今回の協定締結によりお互いの町民や市民の間の連携をより強化し交流を盛んにしようという話もでており、今後話しを進めてまいります。こうした協定や交流がお互いのシティプロモーションとしても高い効果を発揮して明和町と掛川市のより一層の発展に繋がりますようにと願ってやみません。

この協定締結にご理解をいただきました松井市長と御尽力いただきました担当職員の皆様に改めて感謝を申し上げます。

令和元年10月7日

明和町長 富塚もとすけ